

公開研究会が終わり、2週間が経ちました。少しは落ち着いてきたでしょうか。4年生はというと、合唱、合唱、合唱の連続で、いまやアートの4Aといっても過言ではないと言っていいほど、三泗音楽会に向けて頑張っております。

いつものつかみは、これくらいにしておき、公開研の反省について提出していただいた先生ありがとうございました。 (まだ数人提出していただけていない先生も見えますが…) 先生方の反省を読んでいると、やはり多くの先生に子どもを見とる視点の必要性について記入していただけてありました。私自身も、公開研までの実践をふり返る中で、どのような子どもの姿が現れると、学びが成立するのか教師がもっておくこと、その姿が授業の中で立ち現れるような環境を授業の中で整えていくことの大切さを改めて実感しました。

その中で、明日は五十棲先生に家庭科で「くふうしようおいしい食事」という単元で授業研をしていただきます。この教材の中心となるおもしろさを「栄養のバランスを考えた、1食分の食事を考えられるようになること」と五十棲先生は設定されたのですが、どうも、このおもしろさは、個人的に耳が痛い気がします… (絶対に私は自分の食生活で、できていない) そんなことはさておき、五十棲先生は、現代を取り巻く生活環境の変化から「考えて食べる」を軸に授業デザインをされています。では今回の授業では、子どもたちが何に困り、何を考えていたらいいのでしょうか。おそらくその答えが、授業の中で私たちが子どもを見る視点になると考えられます。家庭科における子どもの学びが成立する姿を授業の中で見とっていくことで、子どもの学びを保障する授業づくりにつなげていきましょう。

公開研が終わったあと最初の授業研です。まだ、公開研が終わったあとに全体で話すことはできていませんが、それぞれの先生方で感じられたこと、改めて気づかれたことなどがあると思います。公開研で終わりではなく、あくまで公開研は自分たちの今までの研修についてふりかえる場だと捉え、もう一度、ここから自分たちの授業づくりを見直し、子どもたち全員の学びを保障する授業づくりをすすめていきましょう。

右の2枚は、両方とも岡野先生のスライドです。このスライドから、家庭科はアートの学びであり、アートの学びとは、「よりよく生きることの喜びを学ぶ」とあります。さらに、下のスライドを見ると、家庭科では、日常を生きる技法を学ぶことが分かります。となると、栄養のバランスも気にせず、何も考えずに好きなものばかり食べている私の食生活は……日常を生きる技法が身につけておらず、よりよく生きることの喜びを知らないと言えるのでしょうか。だから、昨年度も、入院してしまうことに…

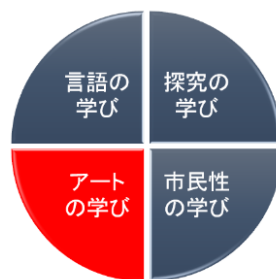
そうなる、6年生の子どもたちには、必ずここで日常を生きる技法を身につけ、よりよく生きることの喜びをここで学ぶことで、私みたいな大人にならないようにして欲しいなと思いました。五十棲先生、よろしくお願ひします。

(文責 甫本)

21世紀のカリキュラム～学びの文化領域の構造化

○言葉の豊かさ、対話的コミュニケーション
○国語科(説明的な文章など)、英語科など

○技法と型、想像力の教育、創造性の教育
○音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科、国語科(文学、詩・俳句・短歌など)、英語科、算数・数学科など



○科学的思考とモデルの探究、批判的思考と協同的探究
○算数・数学科、理科など

○民主主義、ケア、公共倫理、多文化教育
○社会科、道徳、総合的な学習の時間など

アートの学びの学び方 ～よりよく生きることの喜びを学ぶ～

	日常世界 (一つの世界)	非日常世界 (もう一つの世界)
技 (技法・アート)	日常を生きる技法	非日常を生きる技法
型 (スタイル)	生活様式 (生活・健康など)	文化的様式・流儀 (文学・芸術・演劇・舞踊・スポーツなど)
教科	技術・家庭科、保健体育科 (保健分野)、英語科など	音楽科、美術科、保健体育科(体育分野)、国語科(文学)など
学び方	・身体活動の模倣(よいモデル)とスキップ・フールディング(足場かけ)による学びの追求 ・「聴き合い(聞き合い)」にもとづく他者のアイデアによる学びの追求	